

2024/01/25 セミナー資料

大柴寿浩

2024/01/25

あとで使う定理（復習）

命題 0.1 ([KS90, Proposition 3.1.8]). $f: Y \rightarrow X$, $g: Z \rightarrow Y$ を局所コンパクト空間の間の連続写像とする. $f^!$ と $g^!$ のコホモロジー次元が有限であるとする. このとき, $(f \circ g)^!$ のコホモロジー次元は有限で

$$(f \circ g)^! \cong g^! \circ f^!$$

である.

命題 0.2 ([KS90, Proposition 3.1.12]). $f: Y \rightarrow X$ を Y から X の局所閉集合 Z の上への同相写像とする. このとき,

$$f^! \cong f^{-1} \circ \mathrm{R}\Gamma_{f(Y)}(\cdot)$$

である.

命題 0.3 ([KS90, Proposition 3.3.2]). $f: Y \rightarrow X$ をファイバー次元 l の位相的沈めこみとする.

- (i) $k \neq -l$ に対し $H^k(f^! A_X) = 0$ であり, 局所的に $H^{-l}(f^! A_X) \cong A_Y$ である.
- (ii) $f^{-1}(\cdot) \otimes \omega_{Y/X} \rightarrow f^!(\cdot)$ は同型である.

層の例 ([KS90, §2.9] から)

0.1 向きづけ, 微分形式, 密度

C^0 多様体 M 上の層として, 向きづけ層 or_M を考えることも必要になってくる. or_M は \mathbf{Z}_M と局所的に同型な層であり, M の向きが存在する場合, その向きを選ぶことと同型 $\mathrm{or}_M \cong \mathbf{Z}_M$ を選ぶことが同義となるようなものである. or_M については次章で詳しくしらべる.

いま, $\alpha = \infty$ または $\alpha = \omega$ とし, p を整数とする. C_M^α を係数にもつ p 次微分形式の層を $C_M^{\alpha,(p)}$ とおく. また外微分を $d: C_M^{\alpha,(p)} \rightarrow C_M^{\alpha,(p+1)}$ で表す.

(x_1, \dots, x_n) が M 上の局所座標系であるとする. このとき, p 形式 f は次の形にただ一通りに表されるのであった.

$$f = \sum_{|I|=p} f_I dx_I,$$

ここに, $I = \{i_1, \dots, i_p\} \subset \{1, \dots, n\}$, $(i_1 < i_2 < \dots < i_p)$, $dx_I = dx_{i_1} \wedge \dots \wedge dx_{i_p}$ で, f_I は C_M^α の切断である. このとき,

$$df = \sum_{i=1}^n \sum_{|I|=p} \frac{\partial f_I}{\partial x_i} dx_i \wedge dx_I$$

となるのであった. もうひとつ層を導入する.

$$\mathcal{V}_M^\alpha := C_M^{\alpha,(n)} \otimes \text{or}_M$$

($\alpha = \infty$ または $\alpha = \omega$) とおき, M 上の C^α 密度の層とよぶ.

コンパクト台をもつ C^∞ 密度は積分することができる. $\int_M \cdot$ で積分写像

$$(0.1) \quad \int_M \cdot : \Gamma_c(M; \mathcal{V}_M^\infty) \rightarrow \mathbf{C}$$

を表す. $C_M^{\alpha,(p)}$ と \mathcal{V}_M^α は C_M^α 加群の層である.

「1 の分割」の存在から, 層 C_M^α , $C_M^{\alpha,(p)}$, \mathcal{V}_M^α は $\alpha \neq \omega$ に対しては c 柔軟であることが従う. 層 C_M^ω , $C_M^{\omega,(p)}$, \mathcal{V}_M^ω は関手 $\Gamma(M; \cdot)$ に対し非輪状, すなわち $j > 0$ に対し $H^j(M; C_M^\omega) = 0$ である. Grauert[G58] を参照.

0.2 分布と超関数

C^∞ 多様体 M 上にはシュワルツ分布の層 $\mathcal{D}b_M$ が自然に定まる (Schwartz[S66], de Rham[R55] を参照). $\mathcal{D}b_M$ は c 柔軟層であり, $\Gamma_c(M; \mathcal{D}b_M)$ は $\Gamma(M; \mathcal{V}_M^\infty)$ の双対位相線形空間である. ただし, $\Gamma(M; \mathcal{V}_M^\infty)$ にはフレシェ空間としての自然な位相を入れている.

C^ω 多様体 M 上にも同様に佐藤超関数の層 \mathcal{B}_M が自然に定まる (佐藤 [Sa59] を参照). \mathcal{B}_M は脆弱層であり, $\Gamma_c(M; \mathcal{B}_M)$ は $\Gamma(M; \mathcal{V}_M^\omega)$ の双対位相線形空間である. ただし, $\Gamma(M; \mathcal{V}_M^\omega)$ には DFS 空間としての自然な位相を入れている (Martineau と Schapira に詳細な解説がある). しかし, 佐藤による構成は純粋にコホモロジーによるものである. 後ほど??項で復習する.

積分写像 (0.1) はペアリング

$$(0.2) \quad \begin{array}{ccc} \Gamma(M; C_M^\infty) \times \Gamma_c(M; \mathcal{V}_M^\infty) & \longrightarrow & \mathbf{C} \\ \Psi & & \Psi \\ (f, g) & \longmapsto & \int_M fg \end{array}$$

を定める．このペアリングから C_M^∞ から $\mathcal{D}b_M$ への層の射がひき起こされ，この射が単射であることも示せる．さらに，実解析多様体 M の上では，単射 $\Gamma(M; \mathcal{V}_M^\omega) \rightarrow \Gamma(M; \mathcal{V}_M^\infty)$ から射 $\mathcal{D}b_M \rightarrow \mathcal{B}_M$ が引き起こされ，こちらも単射であることがわかる．

分布係数の p 形式の層 $\mathcal{D}b_M^{(p)} := C_M^{\infty, (p)} \otimes_{C_M^\infty} \mathcal{D}b_M$ や超関数係数の p 形式の層 $\mathcal{B}_M^{(p)} := C_M^{\omega, (p)} \otimes_{C_M^\omega} \mathcal{B}_M$ も定義することができる． $\mathcal{D}b_M^{(p)}$ は c 柔軟層， $\mathcal{B}_M^{(p)}$ は脆弱層である．

1 向きづけと双対性 [KS90, 3.3]

命題 1.1 ([KS90, Prop3.3.6]). X を n 次元 C^0 多様体とする．

- (i) or_X は前層 $U \mapsto \text{Hom}(H_c^n(U; A_X), A)$ から誘導された層である．
- (ii) $x \in X$ に対し，標準的な同型 $\text{or}_{X, x} \cong \text{Hom}(H_{\{x\}}^n(X; A_X), A) \cong H_{\{x\}}^n(X; A_X)$ が存在する．
- (iii) X が向きづけられた可微分多様体であるとする．このとき，同型 $\text{or}_X \cong A_X$ が存在する．この同型は X の向きをとりかえることで符号が変わる．

補題 1.2 ([KS90, Prop3.3.7]). E をユークリッド空間 \mathbf{R}^n とし，同型 $\text{or}_E \cong A_E$ を固定する． U と V を E の開集合とし， $f: U \rightarrow V$ を微分同相写像とする．このとき，次の図式は可換である．

$$\begin{array}{ccccc}
 \text{or}_U & \xrightarrow{\sim} & \text{or}_{E/U} & \xrightarrow{\sim} & A_U \\
 \uparrow f_{\text{or}}^\# & & & & \uparrow f_A^\# \\
 f^{-1}(\text{or}_V) & \xrightarrow{\sim} & f^{-1}(\text{or}_{E/V}) & \xrightarrow{\sim} & f^{-1}(A_V)
 \end{array}$$

(ただし，射 $f_{\text{or}}^\#$ と $f_A^\#$ は次のように定義する． a_U と a_V を U と V から $\{\text{pt}\}$ への射影とする．このとき $f_A^\#$ は同型 $f^{-1} \circ a_V^{-1} \xrightarrow{\sim} a_U^{-1}$ で $f_{\text{or}}^\#$ は同型 $f^{-1} \circ a_V^{-1}[-n] \xrightarrow{\sim} f^! \circ a_V^![-n] \xrightarrow{\sim} \circ a_U^{-1}$ である． $f^{-1} \cong f^!$ である．)

$f: Y \rightarrow X$ を C^0 多様体の間の射とする． f を閉うめ込み $j: Y \hookrightarrow Y \times X$ としずめ込み $p: Y \times X \rightarrow X$ の合成に分解して

$$(3.3.5) \quad f: Y \xrightarrow{j} Y \times X \xrightarrow{p} X$$

とかくことができる． $j(y) = (y, f(y))$ で $p(y, x) = x$ である． 命題 0.1-0.3 を適用すると， $F \in D^+(A_X)$ に対し，

$$\begin{aligned}
 f^! F &\cong (p \circ j)^! F && \stackrel{\text{命題 0.1}}{\cong} j^! p^! F \\
 &&& \stackrel{\text{命題 0.2}}{\cong} j^{-1} R\Gamma_{j(Y)}(p^! F) \\
 &&& \stackrel{\text{命題 0.3 (ii)}}{\cong} j^{-1} R\Gamma_{j(Y)} p^{-1} F \otimes \omega_{(Y \times X)/X} \\
 &&& \cong j^{-1} R\Gamma_{j(Y)} p^{-1} F \otimes \text{or}_{(Y \times X)/X}[\dim Y \times X - \dim X] \\
 &&& \cong j^{-1} R\Gamma_{j(Y)} p^{-1} F \otimes \text{or}_Y[\dim Y],
 \end{aligned}$$

すなわち

$$(3.3.6) \quad f^! F \cong j^{-1} R\Gamma_{j(Y)} p^{-1} F \otimes \text{or}_Y[\dim Y]$$

である． $F = A_X$ のとき，

$$(3.3.7) \quad \text{or}_{Y/X} \cong j^{-1} \left(H_{j(Y)}^{\dim Y}(A_{Y \times X}) \right) \otimes \text{or}_Y$$

である． さらに $f = \text{id}_X$ のときは，

$$(3.3.8) \quad \text{or}_X \cong H_X^{\dim X}(A_{X \times X})|_X$$

である（ X と $X \times X$ の対角集合を同一視した）．

記号 1.3 ([KS90, Notation 3.3.8]). 本書では X 章 §3 をのぞき，実多様体 X の次元を $\dim X$ で表す． $f: Y \rightarrow X$ を C^0 多様体の射とするととき，次のようにおく．

$$(3.3.9) \quad \dim Y/X := \dim Y - \dim X.$$

Y が部分多様体のとき，

$$\text{codim}_X Y := -\dim Y/X$$

のようにもかく． 混同する恐れがないときは $\text{codim}_X Y$ を $\text{codim } Y$ と略記する． 次が成り立つ．

$$(3.3.10) \quad \omega_{Y/X} \cong \text{or}_{Y/X}[\dim Y/X].$$

このとき，次のようにおくと自然．

$$\begin{aligned}
 (3.3.11) \quad \omega_{Y/X}^{\otimes -1} &:= R\mathcal{H}om(\omega_{Y/X}, A_Y), \\
 &\cong \text{or}_{Y/X}[-\dim Y/X].
 \end{aligned}$$

命題 1.4 ([KS90, Proposition 3.3.9]). $f: Y \rightarrow X$ を局所コンパクト空間の間の連続写像とする．次の条件が成りたつとする．

- (i) f は位相的しずめ込みである．
- (ii) $Rf_!f^!\mathbf{Z}_X \rightarrow \mathbf{Z}_X$ は同型である．

このとき、 $F \in D^+(\mathbf{Z}_X)$ に対し、射 $F \rightarrow Rf_*f^{-1}$ は同型である．

注意 1.5. $f: Y \rightarrow X$ を局所コンパクト空間の間の連続写像とし、 f はファイバー次元 l の位相的しずめ込みであるとする．このとき、命題 1.4 の条件 (ii) が成りたつためには任意の $x \in X$ に対し、次の同型が成り立つことが必要十分である．

$$(3.3.12) \quad R\Gamma_c(f^{-1}(x); \omega_{f^{-1}(x)}) \xrightarrow{\sim} \mathbf{Z}.$$

この同型は次の同型と同値である．

$$(3.3.13) \quad \mathbf{Z} \xrightarrow{\sim} R\Gamma(f^{-1}(x); \mathbf{Z}_{f^{-1}(x)}).$$

実際、 $M := R\Gamma_c(f^{-1}(x); \omega_{f^{-1}(x)})$ とおき、 $M^* \mathrm{RHom}(M, \mathbf{Z})$ とおく．このとき、 $M^* \cong R\Gamma(f^{-1}(x); \mathbf{Z}_{f^{-1}(x)})$ であり、 $D^b(\mathrm{Mod}(\mathbf{Z}))$ における同型 $M \xrightarrow{\sim} \mathbf{Z}$ は同型 $\mathbf{Z} \xrightarrow{\sim} M^*$ と同じである．

いま、 X を n 次元 C^0 多様体とし、 a_X で写像 $X \rightarrow \{\mathrm{pt}\}$ を表す．射 $\mathrm{Ra}_{X!}a_X^!A_{\{\mathrm{pt}\}} \rightarrow A_{\{\mathrm{pt}\}}$ から射

$$(3.3.14) \quad \mathrm{Ra}_{X!}\omega_X \rightarrow A$$

が定まる．0 次コホモロジーをとることで、「積分射」

$$(3.3.15) \quad \int_X : H_c^n(X; \mathrm{or}_X) \rightarrow A$$

が定まる．他方で、 $A = \mathbf{C}$ かつ X が C^∞ 多様体であるとき、よく知られた射 $H_c^n(X; \mathrm{or}_X) \rightarrow \mathbf{C}$ が次のようにして得られる． or_X はド・ラーム複体と擬同形である：

$$0 \rightarrow C_X^{\infty, (0)} \otimes \mathrm{or}_X \xrightarrow{d} \cdots \rightarrow C_X^{\infty, (n)} \otimes \mathrm{or}_X \rightarrow 0.$$

$C_X^{\infty, (j)} \otimes \mathrm{or}_X$ は c 柔軟なので、

$$H_c^n(X; \mathrm{or}_X) \cong \Gamma_c(X; C^{\infty, (n)} \otimes \mathrm{or}_X) / d\Gamma_c(X; C^{\infty, (n-1)} \otimes \mathrm{or}_X)$$

である． ϕ をコンパクト台をもつ密度、すなわち $\Gamma_c(X; C^{\infty, (n)} \otimes \mathrm{or}_X)$ の元とすると、 $\int_X \phi$ が意味をもち、ストークスの定理から $\psi \in \Gamma_c(X; C^{\infty, (n-1)} \otimes \mathrm{or}_X)$ で $\phi = d\psi$ となるものが存在するとき $\int_X \phi = 0$ となる．したがって、 \int_X は射

$$(3.3.16) \quad \int_X : \Gamma_c(X; C^{\infty, (n)} \otimes \mathrm{or}_X) / d\Gamma_c(X; C^{\infty, (n-1)} \otimes \mathrm{or}_X) \rightarrow \mathbf{C}$$

を定める. この射 (3.3.16) は (3.3.15) と 0 でない定数倍を除いて一致する.

命題 1.6. X を C^0 多様体とし,

参考文献

- [Le13] John M. Lee, *Introduction to Smooth Manifolds*, Second Edition, Graduate Texts in Mathematics, **218**, Springer, 2013.
- [Sp65] Michael Spivak, *Calculus on Manifolds*, Benjamin, 1965.
- [B+84] Borel, *Intersection Cohomology*, Progress in Mathematics, 50, Birkhäuser, 1984.
- [G58] Grauert, *On Levi's problem and the embedding of real analytic manifolds*, Ann. Math. 68, 460–472 (1958).
- [GP74] Victor Guillemin, Alan Pollack, *Differential Topology*, Prentice-Hall, 1974.
- [KS90] Masaki Kashiwara, Pierre Schapira, *Sheaves on Manifolds*, Grundlehren der Mathematischen Wissenschaften, 292, Springer, 1990.
- [KS06] Masaki Kashiwara, Pierre Schapira, *Categories and Sheaves*, Grundlehren der Mathematischen Wissenschaften, 332, Springer, 2006.
- [R55] de Rham, *Variétés différentiables*, Hermann, Paris, 1955.
- [Sa59] Mikio Sato, *Theory of Hyperfunctions*, 1959–60.
- [S66] Schwartz, *Théorie de distributions*, Hermann, Paris, 1966.
- [Sh16] 志甫淳, 層とホモロジー代数, 共立出版, 2016.
- [Ike21] 池祐一, 超局所層理論概説, 2021.
- [Tak17] 竹内潔, \mathcal{D} 加群, 共立出版, 2017.